

Players

Playe

Players



名古屋市文化基金事業
ファン・デ・ナゴヤ美術展 2021

Players

2021.1.7 thu - 24 sun

Players

Playe

Venue

Nagoya Citizens' Gallery Yada

Players

Artist

Curator

Iwasaki Hiromasa
Endou Yusuke

Okada Kakeru

Playe

Daimon Hikari
Yamamoto Hiroki

Players

Install

Players

Exhibition Support

Playe

Okada Kakeru

Canon Inc

Iwasaki Hiromasa

Alt_Medium

Inagaki Takatoshi

Players

Playe

Text

Design

Obana Takashi

Aijima Daichi

Matsui Tadashi

Players

Matsunaga Shinji

Players

Playe

Players

2021.1.7 thu - 24 sun

9:30 am - 7 pm closed on 12 tue / 18 mon

11 mon / 17 sun / 24 sun 9:30 am - 5 pm

入場無料

出展作家

岩崎広大 | Iwasaki Hiromasa

遠藤祐輔 | Endou Yusuke

大門光 | Daimon Hikari

山本浩貴 | Yamamoto Hiroki

キュレーション

岡田翔 | Okada Kakeru

インストール

岡田翔 | Okada Kakeru

岩崎広大 | Iwasaki Hiromasa

展示協力

キヤノン株式会社 | Canon Inc

Alt_Medium | Alt_Medium

稲垣貴俊 | Inagaki Takatoshi

寄稿

尾鼻崇 | Obana Takashi

松井正 | Matsui Tadashi

松永伸司 | Matsunaga Shinji

デザイン

相島大地 | Aijima Daichi



会場

名古屋市民ギャラリー矢田第1展示室

〒461-0047 名古屋市中区大幸南一丁目1番10号 カルポート東4F

TEL 052-719-0430

トークイベント

1.9 3 pm - 参加無料 当日先着20名

尾鼻崇 (日本デジタルゲーム学会事務局長) ×

松井正 (長野県信濃美術館学芸員) ×

岡田翔 (本展キュレーター)

※新型コロナウイルス感染拡大防止の影響により変更が生じる可能性があります。イベントへお越しの際は詳細をWebにてご確認ください。

近年、私たちにに関する物事が凄まじい勢いでデータとして解明されてきている。そこでは、0/1のパターンとして括弧だけでは取まらない情動にも似た質を伴うビッグデータの生成が行われている。監視や制御といった側面を無視することは出来ないが、データ化という視点をを用いることで取り組むことが出来る創作もある。

例えばナスカの地上絵は、原画を何かしらの方法でデータ化させ拡大するという画像生成のプロセスをとることで描かれている。データ化する世界は、創作の情動さえもパターンニングするのだろうか。しかしこのような間を挟む隙間も無く、この世界に生きている私たちは自ずと「Player」という立場に位置づけられてしまうのだ。では、「Player」だからこそ出来る創作があるはずである。上記を踏まえて本展覧会ではアートの作り手を「Artist」ではなく「Player」として捉え直すことから始めたい。

このようなキュレーションは、作り手が「Player」としてデータと遊び・戯れることで生まれてくる新たな関係性を提示出来るはずである。彼らの痕跡を辿ることで示される展示は、ジャンルという区分では集まることのない多様性に満ちている。このような展示は、監視や制御といった側面では捉えられない現在の社会と私たちとの新たな関係性の現前化そのものであり、これからの社会と私たちとの新たな地図帳 (アトラス) である。



岩崎広大

1994年東京都生まれ。2019年東京藝術大学大学院美術研究科油画専攻博士前期課程在学中。主な展示に、「applied images」(2017年、キャンノン品川オープンギャラリー2、東京)、「KUMA EXHIBITON2018」(2018年、スパイラル、東京)、「case10:-scape」(2018年、GINZA SIX・CIBONE case、東京)、「孤独の地図」(2018年、四ツ谷未確認スタジオ、東京、四ツ谷)、「五美虫展Vol.4」(2018年、TAKAO599MUSEUM 東京、高尾)、「Medias」(2019年、市民ギャラリーあざみ野、神奈川)、「imshow」(2020年、Alt_Medium、東京) など。



遠藤祐輔

1985年宮城県仙台市生まれ。2007年東京藝術大学美術学部先端芸術表現科卒業。主な展示、受賞歴に、「floating view " 郊外からうまれるアート」(2011年、トーキョーワンダーサイト、東京)、「floating view 2 トポフィリア・アップデート」(2011年、新宿眼科画廊、東京)、「第14回写真「1_WALL」審査員奨励賞 高橋朗選」(2016年)、「第15回写真「1_WALL」展」(2016年、ガーディアン・ガーデン、東京)、「あなたと海のあいま、通り過ぎてゆくすべて」(2017年、塩竈市杉村博美術館、宮城)、「目に置いていられないように」(2018年、ニコソロン、銀座・大阪)、「写真新世紀2019」優秀賞 (2019年)、「写真新世紀展2019」展 (2019年、TOPMUSEUM、東京)、「Medias」(2019年、市民ギャラリーあざみ野、神奈川)、「imshow」(2020年、kanzan gallery、東京) など。



大門光

1987年東京都生まれ。2012年東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修了。主な展示、受賞歴に、第7回グラフィック「1_WALL」グランプリ (2012年)、大門光展「ゲンガ」(2013年、ガーディアン・ガーデン、東京)、CCC 展覧会企画公募「New Creators Competition 2016」入賞 (2015年)、「シブカル祭。2015」(2015年、バルコムミュージアム、東京)、「嬉野に越してきた大門と中村と生まれも育ちもこの宮崎がやる展示」(2019年、旅館大村屋湯上り文庫、佐賀)、「Medias」(2019年、市民ギャラリーあざみ野、神奈川) など。



山本浩貴

2018年 PhD in Fine Art (博士、芸術学)、Research Centre for Transnational Art, Identity and Nation (トランスナショナル・アート研究所、TrAIN)、University of the Arts London (ロンドン芸術大学) - Chelsea College of Arts (チェルシー・カレッジ・オブ・アーツ)、London, United Kingdom。主な展示に、「表象の他者あるいは他者の表象」(2015年、京都芸術センター、京都)、「Zones of Discomfort」(2016年、Seoul Museum of Art Nanji Gallery、Seoul)、「Scenery and Disconnection」(2018年、TOKAS、東京)、「Medias」(2019年、市民ギャラリーあざみ野、神奈川) など。

主催

ファン・デ・ナゴヤ美術展 2021「Players」実行委員会

公益財団法人名古屋市民文化振興事業団

展覧会 WEB サイト

<https://kakeru-okada.com/>

問合せ

公益財団法人名古屋市民文化振興事業団

TEL052-249-9385 (平日 9:00 - 17:00)



同時開催の展覧会情報

第2、5-7展示室「ABC Homeshopping」/企画:山内亮典/出品作家:SangDoo Nam、Sean D' Antoni、山内亮典

第3-4展示室 展示室「おばあさんの赤い石」/企画・出品作家:平田昌輝